

地域住民における中高年男性の歯牙喪失に関連する要因

安藤歩¹, 大澤正樹¹, 八重樫由美¹, 坂田清美¹, 丹野高三¹, 小野田敏行¹, 板井一好², 田中文隆³, 蒔田真司³, 大間々真一⁴, 小笠原邦昭⁴, 小川彰⁴, 石橋靖宏⁵, 栗林徹⁶, 小山富子⁷, 岡山明²

- 1 岩手医科大学医学部衛生学公衆衛生学講座
- 2 結核予防会第一健康相談所生活習慣病予防研究センター
- 3 岩手医科大学医学部内科学講座心血管・腎・内分泌内科分野
- 4 岩手医科大学医学部脳神経外科学講座
- 5 岩手医科大学医学部内科学講座神経内科・老年科分野
- 6 岩手大学教育学部
- 7 岩手県予防医学協会

抄録

背景目的:大規模な日本人の地域住民のデータを使用し、中高年男性の歯牙喪失に関連する要因を明らかにすること。

方法:2002年-2005年に市町村による基本健診を受診し、研究参加に同意した東北地域（岩手県北部地域）に住む40-79歳の男性8352名を対象とした。現在歯数は単一の質問（あなたは何本の歯を持っていますか？（0本、1-9本、10-19本、20本以上））によって評価された。対象者はその質問の答えによって2つのグループ（現在歯数19本以下、20本以上）に分けられた。多変量ロジスティック回帰分析を使い、現在歯数19本以下であることに関連する要因を評価した。

結果:対象者の現在歯数0本、1-9本、10-19本、20本以上の人数（%）はそれぞれ、1764(21.1%), 1779(21.3%), 1836(22.0%), 2937(35.6%)であった。対象者全体と65-79歳では現在歯数19本以下であることは高齢、喫煙（現在喫煙、過去喫煙）、低い教育歴と有意な関連がみられた。また現在歯数19本以下であることは低BMI、低アルブミン値、低い現在飲酒者割合と有意な関連がみられた。40-64歳では、現在歯数19本以下であることは低HDL-C値と高HbA1c値と有意な関連がみられたが、65-79歳ではこの関連はみられなかった。

結論:喫煙、低い教育歴、不良な栄養状態は日本人の中高年男性の歯牙喪失と関連していることが示唆された。

キーワード:歯牙喪失、リスク指標、中年男性、高齢者男性、日本人、横断研究